

校長室から応援メッセージ②

令和3年6月18日（金）

「終わりに目標があるのではない」（伊勢正三『ささやかなこの人生』）

皆さん、こんにちは。この前お話の冒頭で、日頃お会いすることのあまりない校長の斉木です、と申し上げましたが、相変わらずお会いすることがあまりなく、淋しい思いをしております。次に皆さんの前に立つ時も同じことを言いそうですが、皆さんはタンタンと学校に通い、タンタンと授業に出席し続けてください。

さて43年前の予備校生の私はラジオから流れる流行歌を聴き続けました。『白いページの中に』に次ぐ思い出の一曲は『ささやかなこの人生』。場違いを承知で語らせてください。作詞作曲の伊勢正三さんは当時25歳。そんな若い人が「ささやかなこの人生」というのも何だかな、と思いながらも、「ささやかな人生」って、一体どういう人生なのだろうと、私は歌を聴くたびに考えていました。

偉大な何事かを成し遂げた人の人生と比較して、ほんのちっぽけな人生、という意味で歌っているのではないと思います。また「ささやかな」って言いながら、「どうだ！これが俺の人生だ！」的な歌でもありません。「終わりのない物語を作れ」、「ささやかなこの人生を喜びとか悲しみとかの言葉で決めて欲しくない」などの歌詞に、ささやかな人生の意味が込められていると思います。

終わりのない物語という表現からは、限りある人生において起承転結のそれぞれの時期を区別する難しさを感じます。また喜びとか悲しみとかの言葉で決めない人生、という捉え方は、人生には喜びも悲しみも一杯ありますが、どちらが多いかなんて考えず、喜びも悲しみも共に味わいたいという思いを感じます。

山梨予備校での皆さんの生活は、来春志望大学に合格することを目標としています。志望校に見事合格できれば、それは本当に万々歳です。ですが当然のことながら、その目標の達成で皆さんの人生が完成するわけではありません。そこにいたるまで、そしてそこから先もずっと、毎日が皆さんの人生の本番なのです。

私たちの人生は、何か目標に掲げるほどの、そんな大きな出来事の連続ではありません。むしろ何もない平凡な日々の方が圧倒的に多いのではないのでしょうか。だからこそ、何もない一日の積み重ねを大事にしたい、のですが、でも何もない日々にも、たとえどんなに小さなことであろうと、大切な出来事が起きます。そんな思いが、「ささやかなこの人生」という表現になっているのだと思います。

皆さんは大学合格という大きな目標を掲げながらも目の前の勉強に取り組み、数学の問題が小問(1)までは解けた、英文の意味が何とか読み取れた、そういうささやかな一步に感動してほしいと思います。喜びも悲しみも全てを包み込んだ全体が人生の本当の目標です。それは、ささやかではあっても私だけのこの人生全体を通じて完成する目標なのです。ささやかな一步一步の歩みに自分の最善を尽くす、そんな皆さんを私は校長室から静かに応援したいと思います。